



# AJU愛実

認定  
編集：特定非営利活動法人愛実の会  
・愛実の会事務所  
・居宅介護事業所あみ  
・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実  
(大地の家／紙風船)

## 第56号 会報

定価：一部100円

福祉の創造 幸せの尺度 / 理事長 戸田 真二	P 1
居宅介護事業所あみ	P 2
大地の家 (生活介護)	P 3~P 4
紙風船 (生活介護)	P 5~P 6
「COPAIN」	P 7~P 8
芸術の秋 お祭りの秋 / 島 しづ子	P 9
寄付者名簿	P 10

### 大地の家



### 紙風船



## 福祉の創造 幸せの尺度

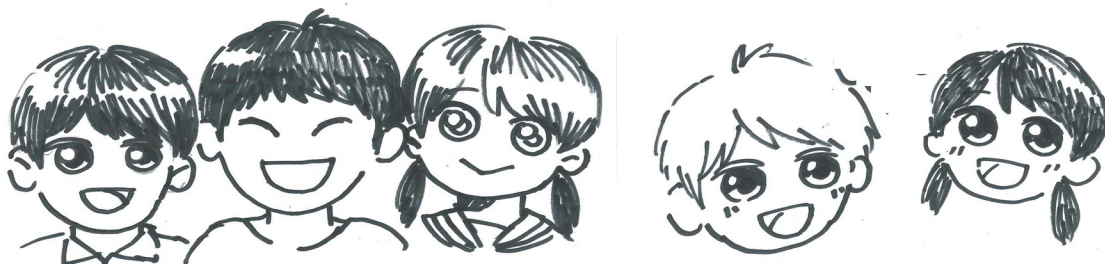
理事長 戸田真二

先ごろ全国の小中学生の不登校が30万人に達したというニュースがTVで流れました。いじめも多くなっており、15歳以上の引きこもりは146万人もいるそうです。合わせて176万人、これは三重県の総人口に匹敵する数字です。ひきこもっている人たちのことを「こもりびと」というそうです。私もこもりびと時代があるので共感できることがたくさんあります。また、人生がつまらなさと感じたことがある人が7割いるというデータもあります。

2023年世界の幸福度ランキングで日本は47位。8年ぶりに40位台に回復とありましたが、ここで気になったのがブータン王国です。調べてみると2013年8位から2019年に95位に急落し、以降ランキングから姿を消しているではありませんか。南アジアにあるブータンは、発展途上国ながら“世界一幸せな国”として広く知られるようになり、国民が皆一様に「雨風をしのげる家があり、食べるものがあり、家族がいるから幸せだ」と答える姿を覚えています。たとえ貧しくとも幸せの本来の姿がここにあるのだと思っていましたから、急落した背景を知り愕然としました。かつてブータンは情報鎖国によって他国の情報が入ってこず、近年情報が流入し隣の芝生が青く見えるようになり、わずか6年の間にそれまで幸せを感じていた人たちが、まわりと比べ始めたとたん幸福度が世界一からランク外まで下がったというわけです。

「あ～日本と一緒になっちゃったあ～」と思わずつぶやいてしまいました。1959年ノーマライゼーションが提唱されてから60年を経過していますが、障がいの有無に関わらず誰もが「普通に生きる」ことを社会理念とする考え方は、今や普通に生きる概念そのものが変わり、普通であることがとても難しい時代に突入しているのではないのでしょうか。他人と比較する人は幸せになることが難しいと感じます。欧米人は、他人と自分を比較しただけで横並びを嫌い、あらゆる面で他人と違うことを好むそうです。ですから幸せの価値観もまた違うのでしょう。収入に関わらず、自分の生活を自ら管理し選択できる自由があることで、幸せを感じることができるのだそうです。幸せの尺度もそれぞれで「我が道を行く」自分の取るべき行動を自分で決める自由度こそが重要だということです。

日本では格差社会が進む中、近年は特にSNSの普及により他人と自分を比較して幸福度が下がる人が増えているのが現状のようです。自分の年収が増えても、他人がそれ以上に増えていると、幸福度は下がるということです。他人との比較や他人からの評価でしか幸せを測れなくなり、優越感や劣等感に心奪われ、自己防衛のために生きる。こんな生き方にうんざりしている人たちがひきこもるのではないのでしょうか。ありのままの自分を開放して見ませんか。人生は勝者と敗者ではなく「共に生きる」生き方を私たちはこれからも求めていきます。





# 居宅介護事業所あみ

## 良子の存在

有村 典子

娘良子は、今年の11月で45才を迎えます。髪に白い物が混ざる年頃になりました。

5年前に誤嚥性肺炎になり、人生初の入院で生死をさまよいましたが、なんと4ヶ月の入院で復活しました。まだやり残したことがあったのでしょうか？しかも私は自信喪失で戸惑ってました。退院後、一人暮らしに向けて多くのスタッフの皆様が実に良く動いて頂いてスタートしました。週に4日のデイサービス・訪問看護・リハビリ・訪問入浴・ショートステイと毎晩宿泊して頂く皆様のおかげで、もう4年半が過ぎました。実家に帰宅するのは、月に4回位です。私の負担は、大幅に減りました。午前中は、パートに行き、畑仕事に孫の世話まで出来ています。ありがたいです。

良子が20才の頃、主人の両親の介護に疲れ果てて、良子の入浴が深夜になった時、「良子ごめんね。いつも後回しになって。」と声を掛けたら、泣いてばかりの良子が突然ガラガラ笑って答えたのです。思わず抱きしめて泣きました。体の力が抜けて救われました。(ああ、この子は私の為に生かされているんだ)と思いました。それまでは、良子の存在を疎ましく思う愚かな親でした。あれ以来、良子は本当に声を出して笑います。寝られない夜もあります。しかも3年間もコロナ禍にあって、良子に関わるスタッフ皆様の細心の注意で、感染する事なく快適に規則正しい生活が送れています。私の知らない時間を良子は、多くの人達と関係を作ってきました。予想をはるかに超えています。どれだけ感謝してもしきれません。語らぬ我が子が身を持って教えてくれました。

良子が幼き時、自己実現の言葉を目標に養護学校に通い、卒業後の受け皿を求めて、走り回って今があります。それから20年以上たち、目標に近づきました。不可能と考えた時もありましたが、多くの支援を頂いて現実となりました。私の体力低下が一番の不安です。良子に負けない様に、頑張ります。そして、良子が一日でも長く笑顔で、楽しく生活ができる事を願っています。



## シェアハウス「コパン」について思う事

上野 宗弘

コパンで過ごしていると、自宅や両親を恋しいと思い出しているメンバーもいます。

私は母子家庭で、物心つく前から小学5年生までの間、場所を転々と預けられて、月1回くらい母と会う生活を送ってきました。もちろんとても寂しく、悲しい思いをしていました。楽しい思い出などほとんどありません。

コパンでメンバーと昔話のアニメや音楽をYouTubeで一緒に見て、字幕を読んだり歌ったりしていると、とても楽しそうな笑顔を見せてくれます。また、2名のメンバーと一緒に食事をし、テレビを見て時間を共有しています。そうした関わりで、親元を離れたメンバーに温かく、家庭的な雰囲気を感じてもらい、メンバー同士が良好な関係を築いていると思います。

私が思うコパンは、シェアハウスという共同生活の中で安全、安心に、楽しく、元気に過ごせるシェアハウスです。第二の自宅に近い存在になれるように、協力したいと思います。



# 大地の家

(生活介護)

## 10月26日、水族館へお出かけ

コロナ禍の影響により屋内施設を見合わせて居ましたが、久しぶりに大地の家の定番の外出先である名古屋港水族館に行きました。

現地に向かう車内では、私は少し緊張しながら、以前水族館に行ったことのあるメンバーに「水族館のことを教えてね」などとお話をしていました。駐車場に到着した時点で興奮しているメンバー、全員が集まると普段とは違う流れに嬉しそうに笑顔を見せてくれたり、緊張気味の様子のメンバーと様々でした。



入口から中に入るとお客さんは想像していたよりずっと多く、小学生の遠足や幼稚園児などのグループが何組も来ているようでした。入口正面では大水槽の中をイルカが泳いでいて、人馴れた様子で何度もガラスの前を横切っていました。メンバーは、水槽のイルカをじっと目でおいかけたり声を出して笑ったり、あるメンバーはアシスタントが指差すイルカと反対の方向を見て、いたずらっぽく笑ったりもしていました。

一度に車椅子のメンバーが三人乗れるエレベーターで上階のイルカショーの会場に移動すると、すでに客席は人でいっぱいでした。係員の方に車椅子用のスペースと隣にアシスタントの座る椅子を用意していただき、メンバーは自宅から用意してきた飲み物を飲んで一息つきました。

しばらくしてメインイベントのイルカショーが始まりました。広い水面のステージを、BGMに合わせてイルカが泳ぎ出しました。目で追うのもやっとのスピードで縦横無尽に泳ぎまわり、見えなくなったと思ったら大きくジャンプしたり、飼育員さんの合図に合わせて上半身を水面から出してくるくると回ったり、浅瀬に乗り上げて撫でられたりしていました。イルカのパフォーマンスをするたびに大きな歓声が上がりました。水槽越しに見るよりずっとダイナミックなイルカの動きと音、盛況な会場の雰囲気をメンバーも直に感じていました。時々戸惑う様子も見られましたがメンバーが多くの笑顔を見せてくれ、開放的で楽しい時間を過ごす事ができました。

メンバーと楽しみを共有し、今後も現地でしか体験できないことを体験できる場所への外出活動を続けていきたいと思います。





## メンバーから受けとったもの

大地の家アシスタント 小野 育代

私が愛実の会に勤めはじめた当時は『愛実友だちの家』と『大地の家』の2ヶ所に別れ家庭的な雰囲気の中でゆったりデイサービスが行われていました。昼食作りは、ボランティアの方やアシスタントで行い、私も手伝っていました。2年後には『紙風船』一緒になり、現在の『NPO 法人愛実の会』になりました。食事作りも専従の方が入るようになりました。

その頃の思い出の一つに夏のプールがあります。大地の家の前に、巨大なビニールプールを広げみんなで楽しみました。嬉しくて顔に水がかかっても気にならないメンバー、浮き輪を抱きバタフライのようにバシャバシャしているメンバー、水が怖くてアシスタントにしがみついているメンバー、今でもその時の光景が思い出されます。

私がこの仕事が始めた時、どうやってコミュニケーションをとればよいのか分からず落ち込んでばかりでした。ある時、一人のメンバーが何かのきっかけで笑いだしました。あふれんばかりの笑顔が全身で表現している姿を見せてくれました。いつの間にか私も笑顔になり、癒され、元気をもらっていました。くよくよしていた事が嘘のように吹っ切れた事を覚えています。言葉で相手に伝えられなくても、表現の仕方は色々あるのだと、その時に気づかされました。このメンバーとの出会いがこの介護の仕事をする上でとても大きな影響を受けました。

月日の経つのは本当に早いもので、あれから19年が経ちます。私も今までは出来ていたことが、少しずつ出来なくなっています。そんな私を受け入れてくれるアシスタントの皆さんには感謝しています。心根の優しい人達で、とても働きやすい職場です。微力ではありますが、大地の家は『居心地が良い』とメンバーに思っただけのように努めて参ります。



## いろいろお世話になっています

大地の家アシスタント 藤原 由美子

愛実の会のアシスタント(パート勤務ですが)として今年で十数年になります。いつの間にかこんなにも長く働かせていただいたのだなあと思っています。

愛実の会での働くきっかけは、息子がまだ港養護学校の在籍中に息子の介護のためにヘルパー2級の資格を取得しました。そんな時、島さんからの声かけで『みどりの家』『愛実友だちの家』、緑区にありました『太子の家』などの手伝いや『大地の家』といろいろな所で働かせていただきました。いろいろな人との出会いは、経験を重ねるうえで貴重な事だったと思います。

働いていていつも思う事は、メンバーと楽しく過ごす事です。いつもと違う様子があれば、何でかな?と感じる事、静かに様子を見る事などを心がけています。他のアシスタントと共有して相談したり、悩んだり、若い方にいつも助けていただいています。

あと一ヶ月ぐらいで今年も終わります。歳を重ねて、年齢に抗うことなく体に気を付けて自分のできる事を一生懸命に行っていきたいです。

# 紙風船のページ

ひまわりホール公演 2023. 10. 9

2019年の10月以来、実に4年ぶりの子どもアートフェスティバルへの参加です。

紙風船が今できる精一杯の事をお客様に観ていただこうと、メンバー・アシスタント一丸となって稽古に励みました。ひまわりホールには人形劇が好きで観に来て下さる方が多いので、いつも緊張しますが、それだけ舞台と会場との一体感を実感できる素晴らしさもあります。

今回が初めて子どもアートフェスティバルに参加するメンバーも多く、新鮮な気持ちと緊張感を抱きながらの舞台となりました。公演後にはメンバーから「大きな舞台できて良かった」「緊張したけど成果を発揮できた」などの感想がありました。いつも感じる事ですが、緊張しながらも本番をやり遂げた後の達成感は最高です。

今後は、外部の公演が増えることに期待しています。そして紙風船の人形劇のことを多くのお客様に知っていただき、どんな時も私たちにしか出来ない人形劇を追い求めて、チャレンジしていきたいと思います。



## グッズ販売の拡大へ

紙風船では、人形劇と共に各作品のテーマを盛り込んだグッズ販売も行っています。これまでは公演先やネットを通過の販売が主でした。もっと販路を広げグッズを通して紙風船の存在を多くの方に知っていただき、少しでも紙風船の収入源になることを目指しています。

この度港区役所でもグッズ販売をさせていただくことになりました。10月から取り組み始め、まだまだ手探り状態ですが出来るだけ継続していきたいと思っています。また、愛実の会の建物前での地域の方との「ふれあい販売」もメンバーと相談しながら行っています。紙風船の、のぼりが目印です。頑張っている姿を見かけましたら、どうぞお声がけください。



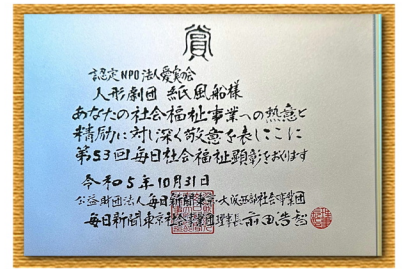
## 2023年 毎日福祉顕彰受賞

アトリエ羅道主宰のおぼらしげる先生が紙風船を推薦して下さり、この度毎日福祉顕彰を受賞することができました。推薦して下さった先生、紙風船を選んで下さった 毎日新聞社、また今まで紙風船を支えてきて下さったたくさんの皆様、本当にありがとうございます。

毎日福祉顕彰は、福祉に貢献した団体や個人に対して贈られる賞です。その受賞は紙風船の取り組みが高く評価された証であり、大変名誉な事です。

1996年から27年間、人形劇を自分たちの仕事として夢づくりの挑戦が始まりました。日本初の三位一体型人形劇の誕生です。人形+人形を操る車いすのメンバー+車椅子を操るアシスタントが一体となり舞台を狭しと駆けめぐります。そして、心のバリアフリーを広げていくことを目指してきました。まだ見ぬ人たちや何度でも観て下さり声援をいただく皆様の元へ、これからも羽ばたいていきます。

そして今回の受賞が多くの人々の福祉への関心を高めるきっかけとなれば幸いです。皆様からの公演依頼をお待ちしています。



(毎日新聞社会事業団提供)



## アシスタントの想い〜わからないことに気づく事〜 李斗熙



日本に来て間もない頃、知人の紹介で主に知的障害のある方のところで働きはじめました。途中3年ほど他の仕事をしていた時期を除けば、この仕事に関わってもう10数年になります。それまで身体の不自由な人との出会いがなかったわけではありませんが、名古屋に来てからの皆さんとのお付き合いは、私にとって新しい経験ばかりでした。歩くペース、物を見る高さ、意思疎通の方法から、それらに必要なバリアフリーのことなど…。

ただでさえ日本語が上手くない私にとって、必要な支援の方法の違いを身に着けることは容易ではありませんでした。短時間でわかるようになることもあれば、長い時間を要することもありました。ある程度の時間を経たおおよその部分がわかることもあれば、時間をかけてもなかなか分かり切れないままのお付き合いをすることもあったのです。この、「未知の部分」を抱えたままのお付き合いは不安でもあるし、もどかしさを感じる時もあります。ただ、どんな付き合いの中にも未知の世界はたくさん存在します。わからないことがあるから付き合いをやめるのではなく、むしろその未知の部分がお互いに理解と関心を深めるきっかけになることもあるのではと思います。わからないことがあるからこそ、相手の小さくて聞こえないような声にも耳を傾けることも可能になるからです。付き合いも長くなると、その声より支援者の思い込みや決めつけなどが先行する時もあるかもしれません。でもその時、何でも分かってやって「あげる」立場ではなく、まだまだわからないことがいっぱいあることに気づき、お互いの気持ちが通じ合うような関係を築いて行けたらと思います。これからもその摸索を続けながら仕事に励んでいきたいと思っています。

# シェアハウス「COPAIN」 一年の歩みを振り返って

2022.9月～2023.8月

シェアハウス「COPAIN」が始まって一年が経過しました。新たな生活スタイルにも慣れ、二人のメンバー、そしてアシスタントも共に楽しく過ごせているように思います。障がいの重いメンバーの将来の暮らしのかたちは、既存の制度では十分な対応が難しいとされています。COPAINはグループホームやショートステイとは違い、先駆的な新たなかたちを模索しています。一年の歩みをQ&Aとしてまとめたものをご紹介します。

## Q 1 一年間の運営状況はどうか

- A 法人独自サービスとして2022年9月オープン（名古屋市熱田区）  
愛実の会の生活介護に通う2名の男性メンバーで2LDK賃貸マンションをシェア  
月～木の3泊4日で実施（重度訪問介護を利用） 月平均16日利用  
初度調弁費：約280万円（浴室バリアフリー化・備品購入等）

## Q 2 利用料について利用者負担は適当か

- A 月平均利用者負担金（一人）：利用日数16日（3泊4日×4週）＝46,595円  
内訳 家賃分：定額 30,000円/月（賃料89,600円）  
食費：朝・夕の食費代を食数で割り算出＝7,744円（毎月変動）  
水道光熱費＋共用雑費：実費を2名でシェア  
法人負担＝家賃1/3・通信費・見守りセンサー・共用備品

## Q 3 支援体制は十分備わっているか

- A 「居宅介護事業所あみ」重度訪問介護を利用、5名のアシスタントが交代で対応  
7：30～9：30 二人介助（起床・更衣・朝食・排泄・出発準備）  
9：30～16：30 日中は障がい者デイセンター愛実（生活介護）を利用  
16：00～20：00 二人介助（夕食・入浴）  
20：00～翌7：00 一人介助（夜間見守り/宿直）

## Q 4 安心できる関係と居場所が確保できているか

- A 自分の部屋、リビングという認識をしっかりと持たれており、それぞれのアシスタントとの関係を楽しまれ、メンバーの思いに寄り添うケアを実践しています。

## Q 5 健康管理はどのように行っているか

- A 家庭からの申し送り、生活介護との引継ぎにより日中の様子や体調の変化を確認。連絡帳を活用し、ご家庭との連携も密にしています。毎朝検温を行い、この一年の間、体調を崩すことなく過ごされています。



**Q 6 食事の提供に問題はないか**

A 限られた時間の中で調理、配膳をするため、調理が苦手なアシスタントが対応する際には冷凍のミールキットを活用しています。当初と比べると献立のバリエーションが増え、骨取りの魚やお好み焼きなど、献立の種類も増えて来ました。

**Q 7 入浴は毎日入ることができているか**

A 重症心身障害者にとって、入浴は身体の緊張が解ける大切な時間だととらえています。浴室を可能な範囲でバリアフリー化し、メンバーの体調によりシャワー浴になる日もありましたが、開所当初より毎日実施しています。

**Q 8 夜間の見守りと睡眠は充分にとれているか**

A 見守りセンサーを導入し、異変にすばやく気づけるよう宿直のアシスタントはリビングで見守りを行っています。就寝後落ち着かない日もありましたが、徐々に睡眠がしっかりとれるようになってきました。

**Q 9 緊急時の対応はどのようになっているか**

A メンバーのトラブル発生時には、責任者に連絡、各家庭の指示を仰ぐようになっています。深夜帯に職員1名での対応が難しいケースが発生した場合にも、責任者に連絡し応援できる体制を取っています。今のところ緊急時の事例はありません。

**Q 10 生活介護が休みとなった場合等、日中の支援は可能か**

A 8月に台風接近に伴い前日に生活介護が閉所を判断したため、コパンの利用を中止。感染対策のため自宅待機となる場合も同様。現状ではどちらのメンバーも家庭に帰ることができるためです。今後メンバーの家庭状況の変化によって対応を検討します。

## 愛実の会のシェアハウスが目指すもの

たとえ障がいが高くとも地域で暮らしたいと願うことは当たり前のことであり、多様性を認め合う時代にあって、愛実の会のシェアハウスは個々の幸せのかたちを模索しています。施設という箱ありきではなく、メンバーが安心して過ごし、自分らしさを発揮できる場所を目指しているのです。そのためにはアシスタントの思いや考えが先行するのではなく、メンバーのニーズ、家族の思いを大切にしながら関わることが必要です。何を大切にしていくかで、かたちは創られていきます。みんなでイメージを膨らませ、更に支援の輪を広げながら課題に取り組んでいきます。

**シェアハウスを支援するアシスタントを募集しています！**

## 芸術の秋 お祭りの秋

島 しづ子

教会の斜め前に、当間地区集落センター(公民館)と言う場所があります。大きなスピーカーが屋根の上であり、当間地区全体に届く音量で集会の案内がされます。最初は「なんだ？なんだ？」とびっくりしました。いろいろな案内がスピーカーで伝えられます。時々、突然に、あるリズムの半鐘が鳴り響きます。その後「屋号＝南金城〇〇 〇〇〇さんが亡くなりました。出棺は何時、葬儀は〇〇サンレー斎場、何時から行われます。謹んでご報告いたします。」とアナウンスがあります。「屋号」というものがそれぞれの家にはあり、新聞の死亡報告欄にも「屋号」が書かれている人が多いです。沖縄では同姓同名の人が多からそのようにして区別してきたのかなあと想像していますが、他にも理由があるでしょうね。鳴り響く半鐘は爆弾に使われていた鉄筒です。遠くまでよく鳴り響きます。この音を初めて聞いた時「火事か？」とドキドキしました。

この鉄筒ですが、爆発しなかった爆弾・砲弾が各地に残っていて、建築工事で発見されます。新聞などで「不発弾処理のために交通止め」「周囲の方々はどこそこに避難」という案内があります。この近くでも少し前に住宅の基礎工事で不発弾が発見されました。大がかりな規制が行われて不発弾処理がなされました。ということは、私の住宅辺りにも爆弾が落とされたということ、まだ不発弾が残っている可能性もあることとなります。沖縄戦から78年経っても戦争の傷跡は残り続けています。

水曜日は高齢者の「ミニデイ」があります。後は草刈り作業の日、会議などに使われています。ある時期になると毎晩のように集落センターでは伝統芸能の練習があります。小中学生、青年会と集まってエイサーなどの練習をしています。夜の8時過ぎから10時ごろまで三線、太鼓などの音が響きます。うるさいと思うこともありますが、若者が熱心に練習していることに感心します。9月の末、集落センター前で大掛かりなエイサー祭りが行われました。目の前で大勢の子ども、青年が勇壮に踊る姿に感動しました。獅子舞もこの集落の目玉で各地のコンクールでも優勝しています。集落センターの中には歴代の優勝旗やカップや賞状が並んでいます。



私が不思議に思うことがあります。沖縄島では住民の四人に一人が亡くなった、この南部では三人に一人が亡くなったと言われています。ほとんどが焼き払われ、住む場所も食べ物も無かった中、生き延びた人々が伝統芸能を受け継いできたことです。それぞれの集落で伝統が違いますから、生き残った僅かな人々が集落に伝えられてきた踊り、音楽などの伝統を伝え、今は子どもたちがその伝統を受け継いでいこうとしています。

この姿を見ながら、芸術や伝統芸能の持つ力を想われます。伝統の中にこの地に住む人の誇り、力が生きています。一人芝居をしている犬養憲子さんを通して芝居も観る機会が増えました。私は言葉の世界で生きてきましたが、芝居や芸術などは多方面からのメッセージが伝えられます。一つの芝居の中にこんな世界もあるよ、こんな見方もあるよ、こんな意見もあるよと言葉にし尽くせない世界があることを再発見しています。音楽も同じだと思いますが、芸術に触れるたびに総合的な言語とでも言いたい感動を覚えます。見た人によって、見た時によって絵画から受ける印象が違うように、芸術の持つ力は四方八方に広がっているし、幾重にも重なっている世界だと思えます。

紙風船の仕事や大地の家の活動にも重なるものだと感じています。訴えたいもの、真実はいつも人を感動させ、立ち上がらせ、元気をくれるものだと思います。夏の終わりに集落センターの前で、老若男女の演舞を見ながら、ひとり感動していました。真実は力を与えてくれるものです。

みな様、お元気で、愛実の会、私への応援ありがとうございます。

## NPO法人愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)

2023年7月1日～2023年10月31日

愛実の会の活動のために多くの方々より寄付金をお寄せ下さいまして、誠にありがとうございます。いただきました寄付金については大切に使用させていただきます。

### ★ 寄付金

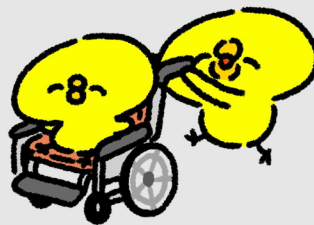
杉本 誠	真木 芳子	加藤 由美子	宮崎 正和
岩田 妙	島田 恵子	柴田 京子	水野 享好
五十嵐 靖	牧野 雅樹	水戸 潔	近藤 洋
伊藤 きみ江	柏木 實	佐藤 千萬子	坂田 昌子
榊原 喜代子	臼田 治子	長沼 潤子	西村 清
武井 陽一	東 昌子	住田 貞次	吉田 瑛子
足立 克己	阿部 健二	丸山 恵津子	矢澤 綾子
宇野 伸一	浅井 汎見	宮川 昭明	堀尾 勇夫
伊藤 あつ子	野崎 典子	池上 譲治	戸田 真二
梅村 亜恵	金田 好美	島 しづ子	奥山 喜正
吉谷 尚之(複数回)	中部学院大学	京都みぎわキリスト教会	

### ★ 夢づくり

河合 みち子	間瀬 滝子	石崎 亮史郎	都築 典子
後藤 宣彦	林 小夜子	吉田 瑛子	矢澤 綾子
山田 美紀(複数回)			
人形劇団むすび座			

NPO法人愛実の会は、名古屋市が認定した「認定NPO法人」です。当法人は、公益事業を行う法人として、税制面で優遇を受けています。寄付をした翌年の確定申告時に、当法人が発行する寄付金受領証明書を添付することにより所得から控除を受けられます。寄付金受領証明書は確定申告まで大切に保管をお願いします。

# パート・アルバイト 大募集！



愛実の会ではともにメンバーの生活を支えてくれる  
アシスタントを募集しています！

**応募資格** 18歳以上、資格・経験 問いません

**業務内容** 通所施設における障がい者の活動支援、介助等

**時間** 9:00～17:00の間で応相談（週2、6h～可）

**給与** 時給1080円～（基本給+手当）

**ご興味のある方は** 障がい者デイセンター愛実  
**お気軽にお電話ください** ☎052-693-5897 担当：竹内

## 【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

E-mail [info@aminokai.com](mailto:info@aminokai.com)

ホームページ <http://www.aminokai.com>

## 【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490  
□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1□1,000円 何□でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）